

豊かな自然を活かした地域活性化と交流人口の増加 ～広域的な取組による水と緑のふるさとづくり～

長野県 木曽広域連合 (きそこういきれんごう)



木曽ヒノキを使った「マイ箸づくり」体験にチャレンジする親子（名古屋市：オアシス21）。



木曽の自然の中で取れた木の実を使って、オリジナルの壁掛け飾りを作っている木曽川下流域の皆さん（ふるさと体験館きそくしま）。



景観に配慮した統一的な木曽広域公共サインを整備し、木曽らしさを演出している。

事例の概要

● 木曽広域連合は、木曽町、上松町、南木曽町、木祖村、王滝村、大桑村を構成団体とする広域連合であり、全面積の90%以上が森林であり、全域が過疎地域である。当広域連合では、住民が安心して暮らしていくための居住環境整備や、山里（田舎）暮らしを望む都市住民を木曽地域へ積極的に受け入れることによる定住人口の増加、木曽の豊かな自然を活かした観光・交流産業の振興等様々な分野において、町村の壁を越えて広域的に事業を行っている。

● 活動内容は、木曽全域で景観に配慮した統一的なデザインの案内標識の設置（1,087件）、木曽全域（13,021世帯）をカバーし、地域内公共施設（110か所）を結ぶ生活基盤としての広域的なCATV事業の実施、愛知県中部水道企業団管内5市町、一宮市、名古屋市の上下水道局と市民経済局との間での木曽川上下流交流の推進拡大、木曽川の上下流域住民が一体となって水源地域の森林を整備し、また、木曽川「水源の森」森林整備協定の推進といった事業のほか、福祉施設や廃棄物処理、し尿処理など多くの事業を一本化し、広域的に実施している。

評価のポイント

木曽広域連合では、地域の持つ豊かな自然や固有の優れた文化などの地域資源を最大限活かし、誰もが安心して暮らせる圏域づくりを進めている。

景観形成の整備のため公共サイン事業は、木曽全域で景観に配慮した統一的なデザイン案内標識を設置し、地域に散在する資源・施設を顕在化させ、それらをネットワークする観光周遊ルートを構築し、観光客などの来訪者は行政区域を意識することなく移動することが可能となり、自治体を越えた情報提供が行われている。

また、生活基盤整備のためのCATV事業は、地域内公共施設を結ぶネットワークが整備され、区域内の加入率は95%を超えるまでになり、行政情報提供サービスや音声告知サービスなど、様々な情報伝達が可能となった点は、住民の安心・充実した生活に大きな役割を果たしている。

さらに、木曽川上下流交流事業は、山林の持つ役割として水資源の確保や災害の抑止など、都市住民の過疎地域に対する理解を深め、今後全国での展開が期待される「流域協定」等に基づき、「自然との共生」活動の先駆的なものとして注目されている。

このような取り組みが、全国の中山間過疎市町村のモデルとなりうるとして、評価された。



「平成の名古屋市民の森」で、木曽ヒノキや広葉樹を植樹している名古屋市の皆さん（木曽町の町有林）。



CATV事業によりテレビ向けの情報サービス、音声告知サービス、インターネット接続環境等を整備し、木曽全域の情報ネットワークを構築しました。

長野県 木曽広域連合 (きそこういきれんごう)



国勢調査人口 (単位：人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
59,598	48,291	37,959	36,500	33,823

人口増減率 (単位：%) 高齢者・若齢者比率(17年) (単位：%)

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率	32.8
△43.2	△30.0	△3.8	△7.3	若年者比率	11.7

交通のご案内

自動車 中央自動車道伊那ICから国道361号、国道19号経由35分
中央自動車道塩尻ICから国道19号経由60分
鉄道 JR木曽福島駅からバス又はタクシーで15分
JR長野駅から徒歩30分
飛行機 松本空港からJR松本駅までバス30分 (JR松本駅からJR木曽福島駅まで特急電車で40分、普通電車で1時間15分)

団体連絡先

木曽広域連合 総務課
〒399-6101
長野県木曽郡木曽町日義4898-37
(木曽文化公園内)
TEL. 0264-23-1050
FAX. 0264-23-1052
<http://www.kisoji.com/kisakoiki/index.html>